

**太田 吉浩議員**



**Q** 吉良村政、村づくりのビジョンは

**A** 夢のある活力に満ちた村を目指したい

太田議員 吉良村政スタートから、前半の2年を折り返そうとしている。この間、国・県の支援で、道路等のインフラ復旧は前進した。しかし、村が主導して進める地域おこしや人づくりは、取り組みや成果が見えてこない。

①村長就任から今日までの取り組みと成果

②31年以降に取り組み重要政策は何か。

③吉良村政が目指している村づくりのビジョンは。

村長 選挙公約は、「復旧復興を最優先、情報公開で村民から信頼される村政を築く」だ。

①村長の交際費や行事予定を村ホームページで公開。村民対話では、行政区ごとの出張座談会や役員内での出張村長室を開設。行財政改革では、役員内の各課新設や分離統合を行った。また、3つあった第3セクターを統合し、納税組合や研修バスは廃止した。白水地区の小学校統合を決め、道筋を付けた。

②後半の重要政策は、観光客のV字回復と子育て支援に力を入れる。

③住み続けたい村を実現する為に、「環境」

**Q** 風しん予防接種の無料化は

**A** 自己負担なしで実施したい

「活力」「暮らし」の3つのKを柱に、夢のある活力に満ちた村を目指したい。

太田議員 今後、それをどう予算化するのか。スピード感を持った施策が必要だ。

前半は、各種検討委員会が乱立し、結論が先送りされてきた。後半は、村長決断で、各課に指示を出す政策も必要ではないか。

村長 今後、村民の意見を聞き、検討委員会の意見に沿っていききたいが、場合によっては、即断即決をして、早急に進めたい。

太田議員 子育て支援に力を入れていくが、子育てに係る経費の負担軽減策が目立つ。それも大事だが、安心して子育て出来る環境づくりこそ、行政が取り組むべき課題では。

①現在、児童虐待が社会問題化している。都会だけの問題ではなく、本村でも起こりうる問題と捉える必要がある。村内における現状と防止策、発覚時の対応は。

②旧白水中校舎で活動している障がい児通所施設「あそびい」への給付が増えている。しかし、発達障害等の困り事のある子ども達の受け皿であり、早期発見・早期支援の専門施設が村にある事は、子育て支援の強みだと考える。今後、白水地区の小学校統合も控え、



登校班の練習風景

村の支援は。

③首都圏を中心に、全国的に風しん感染が拡大している。妊婦が感染すると、障がいを持った赤ちゃんが生まれる恐れが高くなる。国も予防接種の無料化を検討しているが、村が独自政策で進めてはどうか。

村長 ①本村の児童虐待・相談件数は、年間10件程度。現在、学校や保育所等の関係者で、個別ケース会議を行い、支援や見守りを行っている。今後は、妊娠期から切れ目のない支援を行う為に、「子育て世帯包括支援センター」を設置したい。

②現在、支援事業を利用している児童は、村内で150名。その内、145名が「あそびい」、残り5名が村外事業所を利用。給付費は、平成29年度で、8470万円。過去5年間で、利用児童数は3・4倍、給付は28倍になった。

今後は、詳細な利用調査と分析が必要だ。支援の質向上と、支援内容の適正化を図りたい。小学校統合で代替施設への移転相談があれば、適切に対応する。

③県事業で、抗体検査は無料。予防接種の個人負担は、1000円。村としては、抗体検査や予防接種の周知に努め、国の動きに併せて、自己負担なしで実施したい。